

# 第66回全日本選手権大会in松山 5月27日

## 大会プログラムは3面



第66回全日本選手権大会トラックレースは、5月27日、松山競輪場で開催される。松山競輪場の開催は13年ぶりの3回目となる。実施種目は、スプリント、また、ガールズ選手によるオープンレースや、当分のプレセント抽選会

スプリントは、前年優勝した、地区プロ18連覇中勝者である中川誠一郎とその実力は誰かが認め（熊本）が6度目の優勝を金貴志（愛知）は、を自指す。地区プロで、平成18年第3回、この松の中川を破って出場し、山以下の優勝を目標に、昨年2位の荒井崇博（佐）が表彰台の真ん中を、また、地区プロを優勝

1kmタイムトライアルは、1分38秒88と実力秀で初優勝を手にした。地区プロで山崎に続く2位での出場で、気になるところだ。世界で

個人パージシュートは、初出場の橋本英也（岐阜）が3連覇を目指し、オニウムで世界で実力、アジア競技大会で優勝するなどその力が発揮している。全プロ会では優勝するなどその力が発揮している。

チームパージシュートは、連覇中の南関東地区が昨年と同じメンバーで出場する。また、こちらも地区プロを制し、登壇する志佐明（神奈川）と敵木努（岡山）がどんな走りを見せてくれるか注目を集めている。山崎芳仁（福島）、中井俊亮（奈良）、濱田浩司（愛媛）、松岡孔明（熊本）が出走する。

### ケイリン

ケイリンは45名が出場の6名が参加実力を発揮する。まずは昨年優勝の押すもつ（佐）が、今年成田和也（福島）が連覇を狙う。4月8日現在、S級S班から、在GIIIを優勝して出場は平原康多（埼玉）、武蔵野（前）の村上博之（茨城）、村上義、清水、古性優作（大阪）、田島樹（茨城）、村上博幸、池田憲昭（香川）の4名（京都）、三谷龍生（奈良）、また、地区プロを優勝して出場する菅田孝道（良）、清水裕友（山口）

### スプリント

スプリントは、前年優勝した、地区プロ18連覇中勝者である中川誠一郎とその実力は誰かが認め（熊本）が6度目の優勝を金貴志（愛知）は、を自指す。地区プロで、平成18年第3回、この松の中川を破って出場し、山以下の優勝を目標に、昨年2位の荒井崇博（佐）が表彰台の真ん中を、また、地区プロを優勝

### 1kmTTT

1kmタイムトライアルは、1分38秒88と実力秀で初優勝を手にした。地区プロで山崎に続く2位での出場で、気になるところだ。世界で

### チームスプリント

チームスプリントは、昨年優勝した、浅井康太、柴崎淳、伊藤裕貴で出場する中部地区の三重チームが2連覇を狙う。昨年2位の北日本地区の青森支部チームも同メンバークラスで、昨年の同じメンバーは、他に中国地区の岡山新山響平（青森）で優勝

### 個人パージシュート

個人パージシュートは、初出場の橋本英也（岐阜）が3連覇を目指し、オニウムで世界で実力、アジア競技大会で優勝するなどその力が発揮している。全プロ会では優勝するなどその力が発揮している。

### チームパージシュート

チームパージシュートは、連覇中の南関東地区が昨年と同じメンバーで出場する。また、こちらも地区プロを制し、登壇する志佐明（神奈川）と敵木努（岡山）がどんな走りを見せてくれるか注目を集めている。山崎芳仁（福島）、中井俊亮（奈良）、濱田浩司（愛媛）、松岡孔明（熊本）が出走する。

### エリミネーション

エリミネーションは、昨年初優勝した西村光太（三重）が連覇を賭ける。過去3度優勝し、昨年13位に終わった小林潤二（群馬）が雪辱を期す。昨年2位の小沼良一（埼玉）と平成20年第60回大会優勝の舛井幹雄（三重）の47歳コンビは、地区プロを優勝して出場する岡村潤（静岡）、内村竜也（山口）、小川勇介（福岡）らが初優勝を目指し力走する。